

現地調査の拒否を支持



発行所 © 紀伊民報社
和歌山県田辺市秋津町
100番地 〒646-8660
電話 0739(22)7171(代)
営業FAX 0739(26)0077
編集FAX 0739(25)3094
振替口座 00930-2-21977

和歌山支局
電話 073(428)7171
みなべ支局
電話 0739(72)1717
串本支局
電話 0735(62)7171
新宮通信部
電話 0735(28)1717

ごみ最終処分場

串本町長「反対表明」 建設計画に影響必至

紀南11市町村のごみ最終処分場建設計画をめぐり串本町の松原繁樹町長は27日、町議会一般質問で、同町高富が建設候補地になっていることについて「町議会や地元住民の反対を重く受け止めなければいけない」との姿勢を示した。住民らの候補地調査の拒否も支持するという。計画を進める紀南環境整備公社(理事長＝真砂充敏田辺市長)の構成員である松原町長の「反対表明」は、関係市町村に波紋を広げそうだ。



松原繁樹串本町長

橋谷勲議員(無)が「候補地の近くの海岸は吉野熊野国立公園であり、ラムサール条約にも登録された。そんな場所に計画される自体がおかしい」と話し、町長の基本的な考えを聞いた。これに対し、松原町長は「地元町長であり、建設を促進する理事でもあるので、今までは五分五分のスタンスを取っていた」と前置きした上で「理事の前に町長である。町長の立場で考

えれば、町議会の反対、地元住民が反対署名の活動をすることを、これまでよりも重く受け止めなければいけない」と答弁。町の環境を守ることが町長に与えられた使命だとも強調し、高富での建設に反対の姿勢を示した。議会後の本紙の取材に松原町長は、高富地区が現地調査を拒否していることについて「当初から建設を反対する住民の思いと同じだったが、調査は受け入れるべきだと思っていた。これからは町長の立場に重きを置き、調査の拒否を支持したい」と答えた。松原町長は、昨年12月

の町議会で「住民の意見を尊重し、建設地には選ばれたら反対したい」と発言していた。

最終処分場の候補地になっているのは、田辺市の秋津川地区2カ所、稲成地区1カ所、串本町の高富地区2カ所の計5カ所。紀南環境整備公社は「5カ所同時に調査した上で、その中から建設地を決める」としており、高富地区の反対で計画は停滞している。

29日に理事会

公社は29日午前9時半から、田辺市役所本官庁政局で理事会を開く。候補地の撤回を要望している串本町議会と意見交換会を開くにあたり、開催時期や、形式、出席者らについて話し合う。公社

側は、候補地の見直しはしない方針だが、串本町長が一転して調査の受け入れ段階からの反対を示したことで混乱が予想される。

紀南環境整備公社・松原淳事務局長の話「これまで、せっかく広域でごみ最終処分場を整備しようとしている中で、串本町もその一員となって取り組んできた中で、このような発言が出たのは非常に残念。5候補地で同時に調査に入るといっものが原則なので、事業自体が止まってしまつと危うい。また直接、松原町長の話を聞いていないので、明日の理事会で確かめた